



多摩川 水辺のある幸せ

調布市の南端を流れる一級河川の多摩川。国分寺崖線と呼ばれる緑豊かな崖も大昔に多摩川が作ったもの。多摩川が南に移動した後の崖から流れ出る湧水は野川に流れ込み、これもまた豊かな自然を形作っている。そんな大事な多摩川だが昭和の中頃までさかんに河原がみられる。

■子どもの遊び

数年前から調布市でも市民や学校・PTAが力を合わせて「水辺の楽校」を開催、上の写真のように子供達に身近な自然を楽しんでもらう活動も盛んだ。



8.17 ライフジャケットを着て川流れを楽しむ子ども達

右は7/30に市の主催「子どもエコクラブ多摩川源流体験ツアー」で小菅村に行つたときのようす。



今年、滝に打たれたり、川に飛び込んだりする川での遊びや、魚や植物の観察だけでなく、清流の生きもの調べや水質調査を実施。



セイバンモロコシ

セイバンモロコシは近年増えている帰化植物。お月見用にススキを探しても目につくのはセイバンモロコシとヨシばかり。



カワラサイコ

身近な川のルーツで一味違った自然を体験した。河原の植物 野草を観察しながらの散歩も楽しみの一つ。夏に見られるのはカワラサイコという多摩川など砂礫地に咲く花だが、東京都では絶滅危惧種に指定されている。調布の流域でも最近のみかけることが減ってしまった。

調布の生き物 魚編

ライギョ (カムルチー)

多摩川は、近年、多くの外来魚が侵入・定着しています。以前、ピラニアが確認された際には、本種の原産地であるアマゾン河になぞらえて「タマゾン河」などと呼ばれたほどです。

この多摩川で見つかる外来魚の一種に、先日水辺の楽校で確認されたカムルチーがいます。本種は中国産の「雷魚」の一種で、空気呼吸ができるため、溶存酸素量が少ない劣悪な水環境でも生存できます。加えて、肉食性で、昆虫類や甲殻類、小魚、カエル類等を餌にするため、在来種に対して大きな影響を与える危険性があり、外来生物法によって「要注意外来生物」に指定されています。

今回確認された個体は、小さな幼魚でしたが、成長すると90センチまで達する魚類なので、その捕食量も大変なものと思われまます。一度入ってしまった外来魚を駆逐することはとても困難であるため、せめて、新たな種類の外来魚の侵入は防止したいところです。

石川和宏



写真提供：宮地隆博

花の履歴書 22

戸部英貞 (絵・文)

ミズヒキ (水引)

タデ科



Polygonum filiforme Thunb.

何年か前、長月も終わりに近い一日、夏の暑さも一段落し、箱根の山でも歩こうと電車に乗った。天候にも恵まれた日曜日とあって、電車の中は行楽客でいっぱい。こんな大勢の人が箱根に出かけたら、山もゆっくり歩くことが出来ないという目的を替えようかと考えているうちに電車はプラットホームを離れた。

収穫期を前にした田園風景や、時折見える富士の姿を車窓から眺めているうちに、列車は箱根湯本駅に到着し、登山電車に乗り換えようとしたが、プラットホームは先客で溢れ、すぐには乗車できず時間だけが過ぎて行った。

山歩きをするには秋の日は短く、特に目的の山を決めてもいなかったの、小涌谷で下車して湯坂道を歩くことにした。浅間山への道は別荘地を抜けると鬱蒼とした杉木立の中に入り、やがて千条の滝に出た。

滝と言っても水しぶきを上げる落差のある滝ではなく、伏流水が

岩壁の割れ目から幾筋も糸を引くようにあふれ出てくる滝で、あちこちから何本もの水が静かに滴り落ち、小さな流れを作っている。

一息入れて額の汗を拭きながら滝のあたりを見渡すと、すでに花は終わり紅くなった実を付けたミズヒキが、流れに沿って一面に群生し、秋の訪れを告げていた。

ミズヒキは祝い事の進物を包んだ紙の上にかける紅白の紙紐の「水引」から名付けたものであるが、まことに的確な名を貰ったもので、細い花穂に並んだ小さな赤い種子は、裏側が白く、まさに紅白の水引だ。アメリカにも近縁の白い実を付ける種類があり、水引など使う習慣がない国でどんな名で呼んでいるか興味があり調べてみた。茎の節が赤いことから「knot weed」(結び目)と呼び、目の付け所は違うが身近に感じた。

アドベンチャー in 多摩川 2013

8/17 (土)

夏の「水辺の楽校」は京王線鉄橋上流で盛りだくさんの体験を行いました。いつも通りまずは安全講習。そして『がさがさ』。水量が少なく、多くは捕獲できませんでしたが、川のギャングといわれた「ライギョ」を水辺の楽校としては初捕獲！



まだいたんですね。他には、アブラハヤ、モツゴ、コイ、フナ、シマドジョウ、ヤゴ(ギンヤンマ)、スジエビ、ヌマエビ、稚魚などが確認できました。

お次は、『川流れ』。子供も大人もライフジャケットを着用し、きれいになった多摩川を体全体で感じました。スタックが川の中でしばらく立っていると、脚に魚が当たる感触もあったようです。最後は、『Eボート体験』。大人3名を含む子どもが乗船！練習の後、ラフ

ティンダには程遠い、緩やかな瀬と流れを漕ぐといった体験をしました。スタックはEボートに合わせて川流のボートの競争では、子どもが圧勝！といった場面もありました。

※大人は暑くて疲れてあきらめたあ(笑)

上陸後は、「ガリガリ君」で体を冷まし、後片付けをして解散しました。

参加者親子は13組(富士見台小・布田小・多摩川小・飛田給小・染地小)と少なめでしたが、児童はもとより、保護者の方を含め大人達も童心に帰って大いに楽しみました。

今夏はゲリラ雷雨や酷暑が続いていましたが、今回も外遊び日和でした。そして熱中症や事故、怪我もなく無事にイベントが終了できて何よりでした。

水辺の楽校サポーター 池ノ内伸行

昔の多摩川...

昭和30年前後の思い出

◆榎本勉さんのお話

昭和13年上ヶ給(国領町あたり)生まれ

自分が若い頃の河原にはピンク色のカラワラナデシコやツキミソウがたくさん咲いていたし、ツバナ(チガヤ)も摘んでガムのように噛んだりした。竹や金網の蛇籠の下にもぐって魚を突いたり水浴びをしたりしたね。

昭和32年に小河内ダムができるまでは台風で増水するたびに丸太がたくさん流れてきたので、近隣の人たちは命

がけて丸太を拾い集め、暮らしの足にしたらしい。そんなときは朝から晩まで堤防のあたりがにぎやかだった。

増水の時は必ずナゼ網か投げ網(アミブチ)をやった。投げ網ではフナ・コイ・アユ・ヤマベ・ハヤ・セイボが捕れた。26年頃まではガジカが捕れたし、他にタライ筒・ウナギ筒・ドジョウ(オイノメ)筒・瓶筒・釜(モジ)・流し針など色々なやり方で魚を捕ったんだ。

※次号で魚とりのしかけを紹介します

入間・樹林の会

■7月21日(日) 曇り

準備体操、樹林地内巡回後、方形枠調査をメンバー5人で実施、同定を根本さんと行った。雑木林ボランティア講座の実習として、三角地の草刈り作業を一緒に行った。最も下草が繁茂する所なので、人数がいて作業ははかどり、作業を一緒にすることで一体感も生じた。鎌が足りないなどもう少し入念な打ち合わせは必要であった。古タイヤ・家庭ごみのポイ捨てが多かった。



養成講座受講生との記念写真



ツユクサ

■8月18日(日) 晴れ 参加者8名

32度の猛暑日だったが、養成講座受講生2人が早速活動に参加し樹林地内巡回後、全員で三角地の草刈り作業を行った。

一ヶ月間でさらにクサギ・コウソクが繁り、アシナガバチの巣がありメンバーがさされてしまった。その先の草刈りは終えられなかったが、ヤブ化していたフェンスが現れた。キツネノカミソリとヤブランが彩りを添え、ヤブミヨウガ・ハエドクソウ・ミズヒキ・イノコズチも。アブラゼミ・ミンミンゼミ・ツクツクホウシの3種の蝉の他モンキチヨウ・クロアゲハ・シオカラトンボ。鳥はヒヨドリとヤマガラ。林内は涼しいが、直射日光の元での作業やハチ対策は注意が必要である。(安部)

カニ山の会

■7月13日(土) 薄曇り 参加者7名

大変な暑さの中、植栽地とその周辺の草刈りを実施。20分作業をしたら10分の水飲み休憩というリズムで作業を行った。植栽木が水不足で枯れていることが心配されたが、前回からの枯死は無くホツとする。シユ口皮のマルチが効果を発揮しているのだろうか。

作業中に、草むらの中でノギリクワガタ、さらにケンボナシの幹に体長が8cmとかなり大きなキイロスズメガ?の幼虫を発見。人の視点からだけではなく、生物にとって良い環境になるよう考えながら植物を保全していきたい。



キツネノカミソリ



ハエドクソウ ヤブラン



→草刈り後の入間樹林



ノギリクワガタ



スズメガ幼虫

ノギリクワガタ

■7月14日(日) 参加者9名
西原自然公園視察(都の公園協会賞最優秀賞)
西原自然公園ボランティアの責任者の方に園内を案内していただいた。年ごとに場所を決め伐採を行っているので、萌芽更新の進み具合がわかり、手入れのされた気持ち良い林になっていた。



また子ども達のために三輪車レーヌなど毎年遊びイベントも開催しているとのこと、雑木林の使い方も参考になり、実り多い見学会となった。

■8月10日(土) 晴れ 参加者5名

前回と同様、植栽地とその周辺の草刈と水やり。瞬間に伸びた草だが昨年と同時期より草丈も低く、作業はかなり楽になった。今年の秋はドンダリを植えるイベントはお休みし、大きくなったケンボナシの移植をしようか、との話がでた。(報告書より)



若葉の森3・1会

■7月7日(日) 快晴 参加者4名

最高気温35度以上の猛暑日で、給水、休憩に気を付けました。参加者が少なく作業を第一緑地に限定しました。前回に続き、北西の斜面の土留め横木の補修、昆虫採集たろうか動かされて散乱したままの北東の保護柵横木の補修、ゴミ拾い、落葉かきを行いました。6月23日に開催された、第6回「みんなで守ろう日本のラン」シンポジウムに参加し、キンラン、ギンランの種子に注目することを知り、早速確認しました。9月、10月と継続して観察する予定です。なお、8月は夏休みとし、次回は9月1日です。(N&K)



種子をもったキンラン



斜面の階段状土留め横木補修



保護柵横木散乱



保護柵横木修復後



調布の里山 その①

今年、水不足で田植えができない田んぼもありました。田んぼの学校でも例年田植えの後発生するホウネンエビがほとんど見られないことや、オタマジヤクシの数に比べアマガエルになった個体がちよっと少ない気がします。

昔の田んぼはプランクトンが豊富で魚類、両生類、水生昆虫などにとつて、餌に不自由ない場所となっていたはずで、す。農業、化学肥料などが使われるようになって、それらが水路に流出するこ

とが問題となり、田んぼの水を水路に戻すことをやめてしまいました。佐須の田んぼも水路の整備を行った時点で田んぼに引き込んだ水は地中に浸透させるか、下水に流すようになっていきます。

田んぼの学校では基本的に水路の水を汚すことがないため、今年も水路と田んぼの一体化による水管理をしています。そのため水路の堰とセリの畑と田んぼの水面がほぼ一致していて、水中の生物が行き来できる状態になっています。

(「田んぼの学校」お便りより)

夏の虫たち

どんなところにどんな虫がいるのだろう。今年の夏も雑木林の中には可愛い仲間がいっぱい！



ナガコガネグモ



ハラビロカマキリ



ツマグロヒョウモン



トラフカミキリ



ヤブキリ



カノコガ



カブトムシ



ショウリヨウバッタとショウリヨウバッタモドキ



シャクトリムシ

夏は昆虫が目立つ季節。ノコギリクワガタやカブトムシを発見したり、夕暮れにはセミの幼虫が這い出してくるのを見ることもできる。シヨウリヨウバッタモドキは普通のシヨウリヨウバッタとよく似ているが調布でも見られる場所が限られているちよっとめずらしいバッタ。

いかに暑苦しい柄、たまには雑木林に出かけて可愛い仲間たちを探してみませんか！

夏は昆虫が目立つ季節のツマグロヒョウモンは南の方から温暖化にともなって北上してきたチョウ。トラフカミキリはアシナガバチとソツクリな色だし、シャクトリムシは小枝と間違えそ

そしてモダンでおしゃれな色のカノコガやバナナムシと呼ばれることもあるきれいな色のツマグロオオヨコバ。

野川の生き物調査

9/14 (土) 10時～ 子どもエコクラブ
ガサガサ (川の生き物探し) & 水質調査体験
場所：野川、第七中学校そば 問：環境政策課
10/5 (土) 9時半～ 身近な川を見守る会
「野川のごきげん伺い」場所：細田橋下、問：042-487-3087

今年度 後期 雑木林ボランティア講座日程

★10/26 (土) 生き物から見る雑木林の生態系／観察
★11/16 (土) 冬の雑木林と農業との関わり／火燻し体験等
申込・問合せ 環境政策課：042-481-7086

環境市民活動スケジュール
入間・樹林の会
原則毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

●9/15 (日) 9:30～12:00
●10/20 (日) 9:30～12:00

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。野草園横直接集合

●9/14 (土) 10:00～12:00
●10/12 (土) 10:00～12:00

若葉緑地の会

原則毎月第2日曜と次の木曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●9/8 (日)・19 (木) 9:30～12:00
●10/13 (日)・24 (木) 9:30～12:00

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

●9/1 (日) 9:30～12:00
●10/6 (日) 9:30～12:00

先の4つの活動への参加、その他は緑と公園課へお問合せ下さい。
042-481-7083

調布水辺の楽校

●11月 多摩川クリーンアップ & 芋煮イベント
※ボランティアスタッフ参加歓迎
問合せ 環境政策課：042-481-7086

市民発 ちょうふの自然だより

◆「ちょうふの自然だより」はカンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が発行しています。隔月で1000部発行。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載。市民会議ホームページにバックナンバーを掲載しています。併せてご覧下さい。

発行：ちょうふ環境市民会議 連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org ※携帯メールでのお問合せには当方の返信が届かない場合があります。

“自然だより”の置き場所

◆地域福祉センター、たづくり 11F みんなの広場、調布市環境部 (市役所 8F)、市図書館 10 館、あくろす 2・3F、郷土博物館、実篤記念館、多摩川自然情報館のほか、めぐもりステーション、神代植物公園植物多様性センター、世田谷ビジターセンター、野菜食堂みさと屋さんなど。